

「学生とシニアの対話イン長岡技科大学2018」 事後アンケート結果
(平成30年6月20日開催)

纏め：米山 潔

*参加者23名（アンケート回収数19）

男女別と学部・修士構成

	修士	学部	修士等未記入	男・女計
男	11	0	0	11
女	2	0	0	2
男・女未記入	5	1	0	6
修士・学部計	18	1	0	19

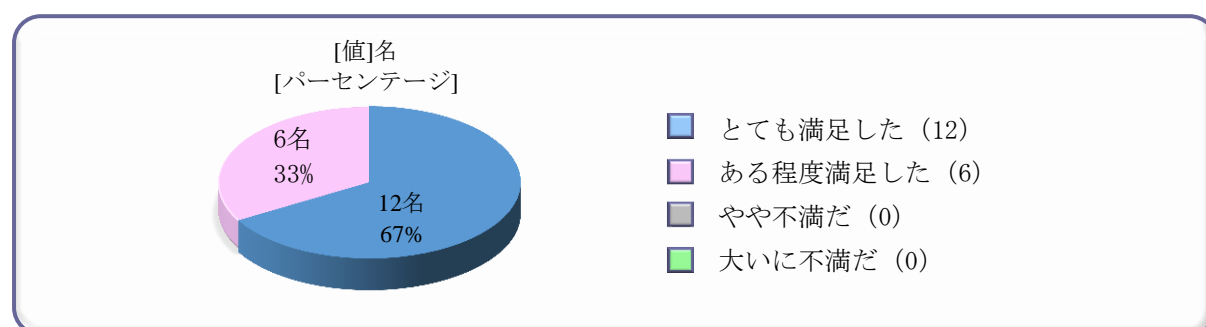
注：学部のチェックした学生が原子力専攻になっていました。修士の間違いでしょう。

専攻と就職希望先の構成

	原子力系	非原子力系	メーカー	研究機関	教育機関	その他
原子力	4	3	2	0	0	1
非原子力	1	0	4	0	0	1
専攻未記入	0	2	1	1	0	0

注：原子力系の1名が未記入、原子力系の2名と非原子力系1名がダブル記入であった。
進学については、原子力系の1名のみ「原子力系以外への進学」希望があった。

(1) 講演の内容は満足のものでしたか？その理由は？



注：未記入は、前講義で講演を聴講できなかったもので止むを得ない。

[とても満足した]

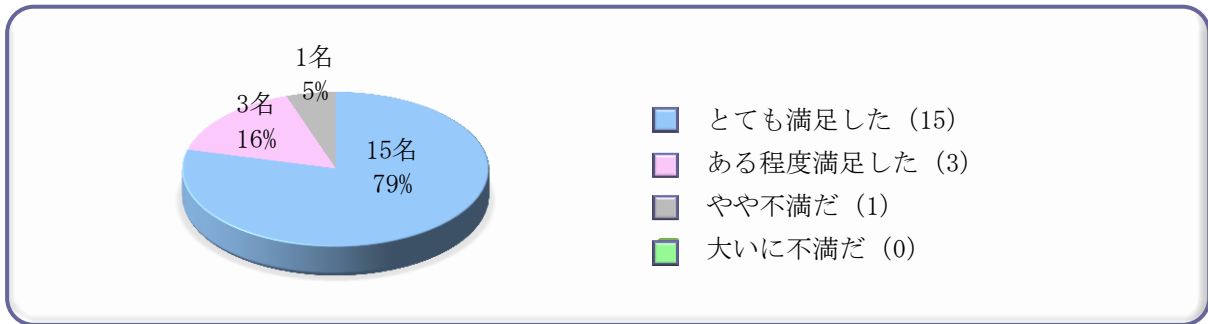
- ① 新たな知見が得られた。
- ② 自身の知らないより深い知識を得られた。
- ③ 違う分野の知見が非常に興味深かった。
- ④ 様々なご意見を聞くことができたため。
- ⑤ 深い議論ができたから。

[ある程度満足した]

- ⑥ 福島事故以後の基準の考え方や原発の安全設計の考えが学べた。

- ⑦ 福島原発の事故について知らないことを知れた。
- ⑧ 原子力の概要について理解した。
- ⑨ 講演内容は色々な事故や事象とその原因などが知れて良かったが、時間的に思う様に話せていなさそうなところがあった。
- ⑩ 時間がもう少しあると良かった。

(2) 対話の内容は満足いくものでしたか？その理由は？



[とても満足した]

- ① 作成したイベントツリーの内容についても触れて、再度考察を深められた。
- ② 実際に対処していた人の話を詳しく聞くことができたから。
- ③ 詳しい現場の話や、技術者の方々の考えが聞けて、非常に勉強になった。
- ④ 実際に原子力関係の仕事に従事していた方々の話は大変参考になった。
- ⑤ 避難の際に何が大切なのか、住民への話し方、具体的な避難策（地域ごと）の足りなさ等が分かった。
- ⑥ 知識を持っていない人への話し方を学べた。
- ⑦ 疑問点について回答が得られた。

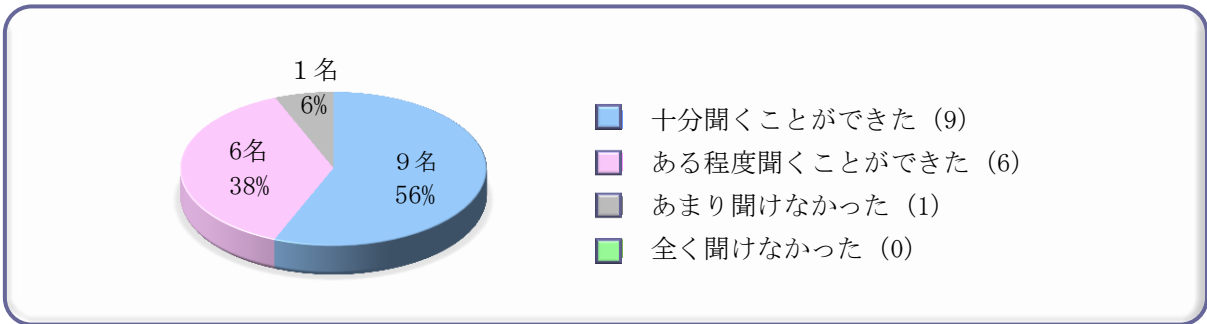
[ある程度満足した]

- ⑧ 自分達の思ってもみなかった視点での意見交換が行われた。
- ⑨ 普段聞けない話を聞いて良かった。

[やや不満だ]

- ⑩ 事前の下調べの少なさは思った以上で、常に教えられる側になってしまい、こちらからの考察や分析がなくなってしまった。

(3) 事前に聞きたいと思っていたことは聞けましたか？



注：3名が未記入であった。

[十分に聞くことができた]

- ① 予定していたリストにある質問を聞くことができた。
- ② 質問の準備をしていたため、一つの質問に2、3を答えてくれた。
- ③ 時間の関係でまとめきれなかったが、事前に考えていた疑問+3つほど追加で話げできた。

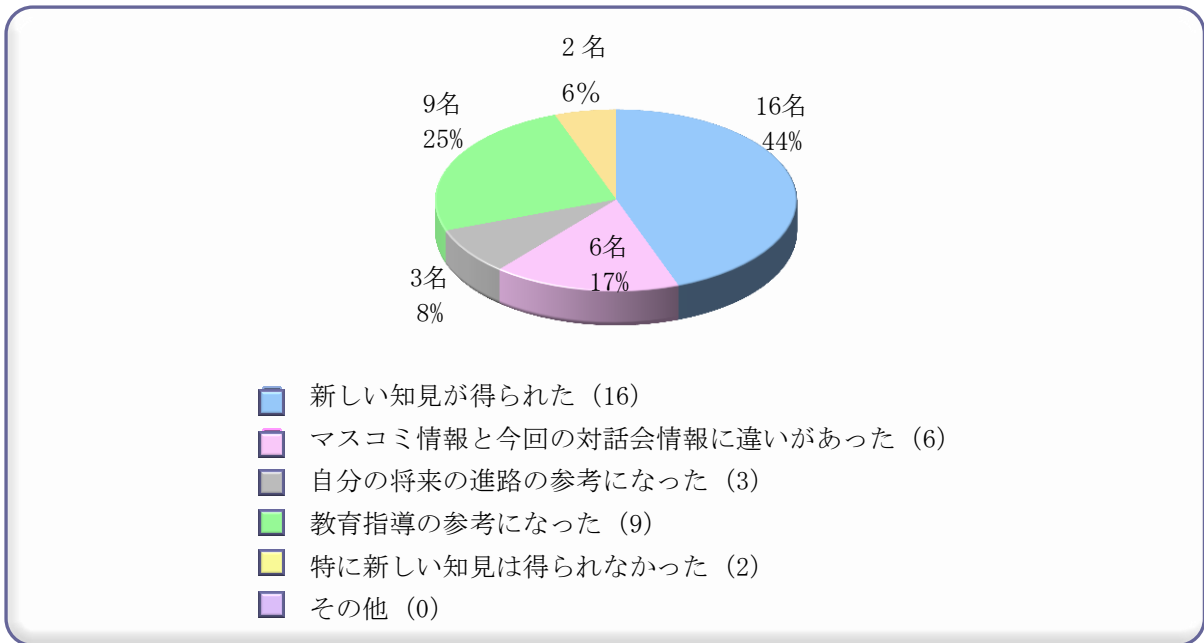
[ある程度聞くことができた]

- ④ 見識を深めれた。
- ⑤ 事前にもっと考えておけばよかった。学生は専門家と住民の途中に属する存在であると思うため住民が考えそうなことをよく想定して質問したかった。
- ⑥ 議論が発散している部分があった。

[あまり聞けなかった]

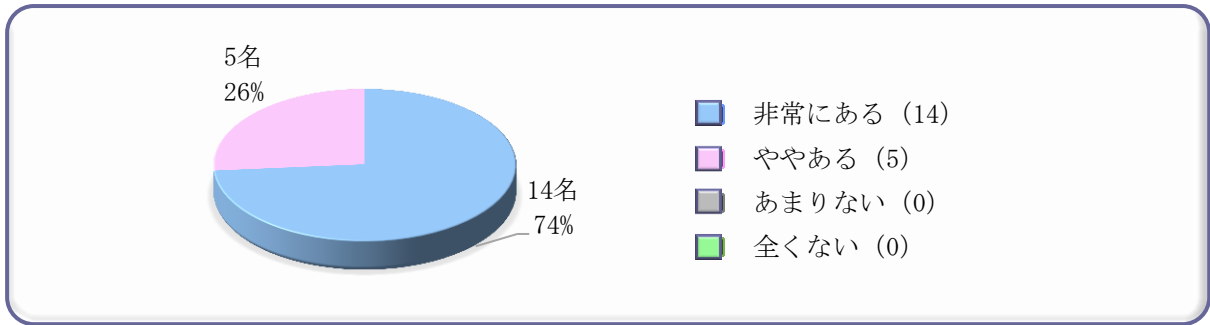
- ⑥ 時間不足

(4) 今回の対話で得られたことは何ですか？（複数回答も可）



注：「特に新しい知見は得られなかった。」と記した2名の共通は「原子力系」であることから、自らの知識に対する自信と推察する。しかも、設問1の「講演」や設問5の「シニアとの対話」共に、二人は高く評価しているので問題はない。

(5) 「学生とシニアの対話」の必要性についてどのように感じますか？その理由は？



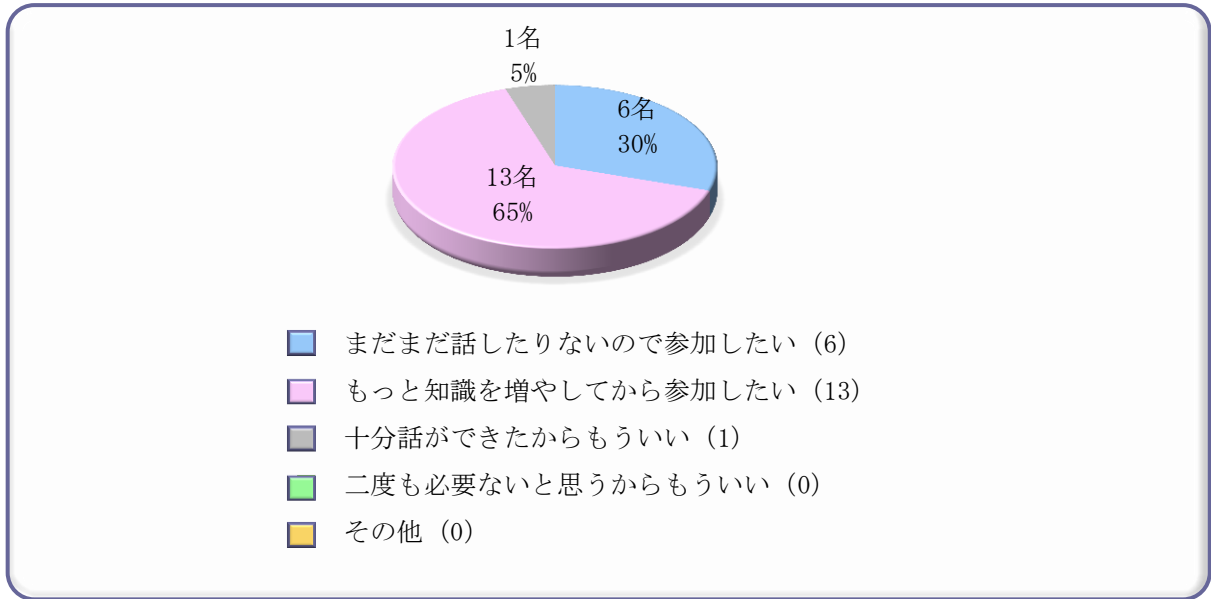
[非常にある]

- ① 自身の知識の確認や、疑問の解決、新しい知識や考え方の習得に大いに役に立つ。特に、次の世代として、先方の想いを知ることができるのは大きい。
- ② 学習というのも重要だが、経験も大きな知見だと考えるため。
- ③ 知識の確認や実際に現場の意見を聞くことができるため。
- ④ 年代の違いによる価値観の違いを感じることができる。
- ⑤ 年代が違う方と話す機会が普段あまりないため、話すこと自体貴重である。また、私達にはない知識量と特に経験を聞くことができ、よかったと思う。
- ⑦ 自分と分野がかぶるのなら、非常に参考になると感じた。

[ややある]

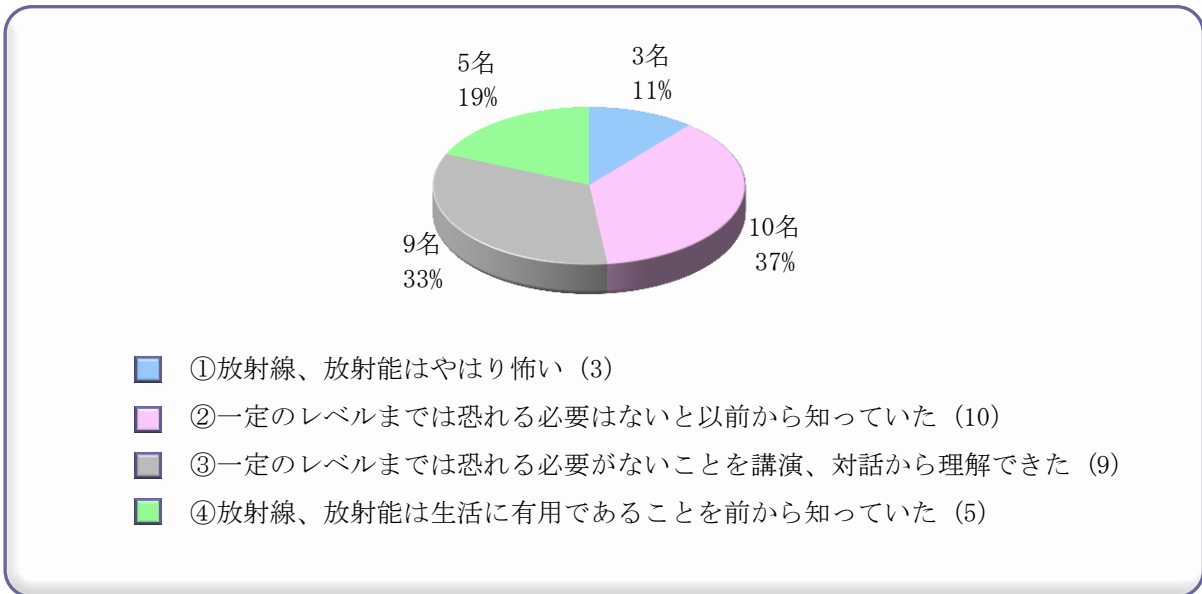
- ⑧ 実体験をもとにした経験談を聞いた。また、議論できた。
- ⑨ 専門知識はSNWの人の方がいる。
- ⑩ 私は原子力専攻ではなかったため、専門用語が分からなかった。しかし、原子力専攻の人にはとても良かったと思う。

(6) 今後、機会があれば再度シニアとの対話に参加したいと思いますか？



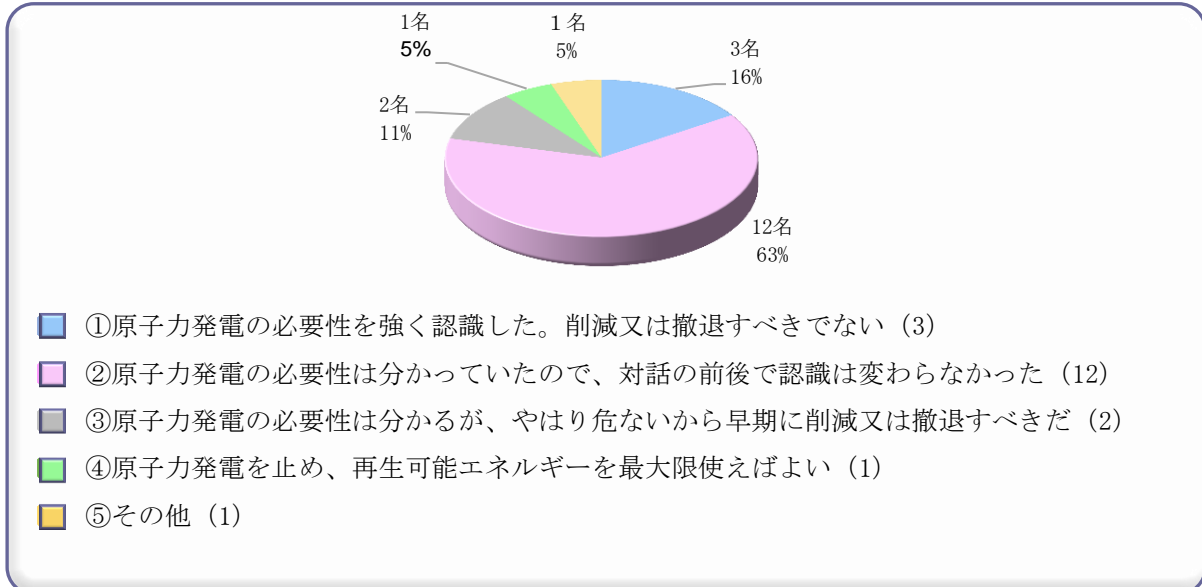
注：一人の学生が「まだまだ話したりないので参加したい。」と「もっと知識を増やしてから参加したい。」にダブルチェックを入れていたのをそのまま計上した。

(7) 放射線、放射能に対してどのようなイメージを持っていますか？（複数回答も可）



注：一人は「一定のレベルまでは恐れる必要はないと頭では分かるが、心身は怖いと冠切る。」との記述のみであったが、整理する際に内容から②に算入した。

- (8) 日本のエネルギー政策では、原子力発電を基幹電力（2030年に発電電力量の20～22%）とし、省エネ・再エネ利用の拡大や火力の高効率化により、可能な限り削減していくとされています。対話も含めてあなたの認識は次のどれですか？その理由は？（複数回答も可）



注：1名が「早期に削減停止」と「原子力発電を止める」の2項をチェックした。1名は未記入。

[① 原子力発電の必要性を強く認識した。削減又は撤退すべきでない]

- a) 日本のベストミックスでのベース電源をになう電源は核融合が（発達しない）使われない限り、原子力以外ないから。
- b) 代替となる技術ができるまで必要悪としてあるべき。

[② 原子力発電の必要性は分かっていたので、対話の前後で認識は変わらなかった]

- c) 多くの事故や大きな事故を受け、原子力発電の安全性は確実に高くはなっている。その上でほとんど外国から燃料を買っている火力や安定供給に問題のある再エネだけを使うようにして、自国でもある程度燃料をまかなえて、安定している原子力を使わないのはもったいない。
- d) 原子力のリスクは理解できるが、エネルギー資源が少ない日本では他の選択肢が少ない。
- e) 現状を省みるとCO₂削減に向かうには原子力は必要である。
- f) 重要なベースロード電源だから。

[③ 原子力発電の必要性は分かるが、やはり危ないから早期に削減又は撤退すべきだ]

- g) 現実的に考えて、早期に原子力発電を削減・撤退はできないし、コスト面を考えても原子力の有用性が高いのは事実である。しかし、ひとたび事故が起これば甚大な被害が出るリスクを国民が理解しているか疑問に思う。原子力を進めるということは、そのリスクを皆が背負うということになるという事実を国民は本気で考えているのだろうか。また、将来新たに生まれてくるエネルギーもあるであろうし、今後の動向を見ることも大切だと思う。

[④ 原子力発電を止め、再生可能エネルギーを最大限使えばよい]

- h) 再生エネルギーを最大限（20%）使うことが best だと思う。そこまでの技術が発達するまで、

原子力は重要になると思う。(③もチェック)

[⑤ その他]

- ① CO₂の話もあったが、核廃棄物を、自然環境への悪影響の部分では評価できないと思った。リスクに関しては、具体的な指標を用いて説明され、自分の中で、原発について整理

(9) 本企画を通して全体の感想・意見などがあれば自由に書いてください。

- ① とても有意義な時間でした。
- ② 大変貴重な体験ができた。対話集会なので、講演時間を短くして、対話の時間もしくは発表・質疑応答の時間を長くしても良いのではないかと感じた。
- ③ できることならもう少し質疑応答時間をとって、学生が質問しなくともシニアの質問を通してあげられるようにした方が良いのでは、と思いました。
- ④ 事故について詳しく知っている人に話を聞くことができよかった。もっと知識が必要だと感じた。
- ⑤ 先生方自身の経験談（住民との対話や失敗談や経験の中から学んだこと）をもっとうかがいたかった。知識は授業で学んだり、文献を読めば得られるが、経験だけは一人一人に話しを聞くことで、自分以外の経験を知ることができる。先生方の一人一人の経験は非常に貴重なものであるため、もっと話してほしい。

* 纏め後記

昨年の13名参加から23名に大幅にアップしました。また、対話会の日にアンケート回収ができず、後日に担当教官から送付されてきました。その分、以前より丁寧な記載が多かったようです。担当教官のご苦労に感謝致します。

アンケート未回収の4名ですが、第2グループに参加した留学生4名の可能性が高いと推定します。アンケート回収率を上げるより、留学生参加の価値が高いと考えています。留学生参加を歓迎します。

男女の無記名が6枚ありました。男女の無差別化という現代に合わせる時期かもしれません。

「理由等の記述欄」に真摯な気持ちを記してくれる学生がいます。これに最初に触れられるのがアンケート纏め役の役得ともいえます。一人の非原子力系女子修士に共感しました。上記の記述の番号でご紹介します。(1)－⑦、(2)－⑤、(3)－⑤、(5)－⑤、(8)－⑧、(9)－⑤です。是非に再読ください。

このように真面目な学生達により、あらゆる難題に対して臆することなく対話を続ける国に生まれ変わると思います。順調に彼等を育成する使命を全うすべく、今後も対話会に臨みたいと考えます。尚、アンケートの回答項目の割合に関しては、グラフ表示では記入のあった方の中での割合とした。

又、複数回答記入の場合にはグラフ表示では記入事項全体の中での割合とした。(世話役注記)